

「作業環境の改善と個人防衛の徹底を」 「鉛の危険性を理解する教育が最も重要」

「作業環境の改善と個人防衛の徹底を」 「鉛の危険性を理解する教育が最も重要」

本紙が独自に調査報道を続けている防食・塗装工事の中毒問題。防食関連企業を中心とする読者から関心が相次いでいるが、事業者の中には、問題の重要性をきちんと認識し、自ら対策を講じているところもある。第3弾として、池田工業(北海道北見市、池田建設社長)と、ヤマダインフラテクノス(愛知県東海市、山田博文社長)の2社に聞いた。

池田工業



池田社長

池田工業は、血中鉛(注1)の管理を社内徹底している。

同社は、防食・塗装工事(下地処理・上塗り塗装)を自社社員で担う。現場でつかんだノウハウと技術を蓄積し、単に工事を実施するだけでなく、防食専門会社として、地域から依頼されるH2S・H2Sリンゲンを処理する事業も手がけている。また、東京本社の造船所(三浦市)で、橋梁現場工事がある。保存する塗料の管理も徹底している。また、プラスト以外の、1日式塗膜は、塗布機、ウォータージェット、動力工具などを、常に最新の状態に保



マスクのフィッティングチェック

は、空気中の鉛粉じん量が多いと認識されている。その一方で、動力工具による下地処理中は、粉じん量がプラストに比べ少量だからという理由で

対策が疎かになり、血中鉛が上昇する事例も少なくない。池田社長(48)は「法令に則った半年ごとの鉛健康診断時に、血中鉛濃度が分布2・3に該当する所見が出た作業員は、

①作業員本人が自分で

「既読無視の返信は、安全面だけでいえば、粉じん・化学物質との戦い。作業環境の改善と個人防護の徹底が最重要だ」

池田社長はそう指摘している。

今回の鉛健康診断で血中鉛が分布1になるまで、鉛粉じんに暴露される可能性のある作業から外している。また、その作業員の血中鉛濃度がなぜ上昇したのか、理由を調査して明確にするという。同社はそのため、マスクメーカー・調研の協力の下、マスクのフィッティングチェックの講習を定期的の実施している。

池田社長はその理由に3点を挙げる。

②濡れないマスクの装着を本人ができること
③同僚が鉛中毒やじん肺に罹患した時、とれたけ悲惨な状態になるか、経営者である私と社員が再確認し、意識の共有を図ること。

「既読無視の返信は、安全面だけでいえば、粉じん・化学物質との戦い。作業環境の改善と個人防護の徹底が最重要だ」

池田社長はそう指摘している。

池田社長はそう指摘している。

池田社長はそう指摘している。

池田社長はそう指摘している。